



秋朝 礼恵 講師

【あきとも あやえ】

東京大学経済学部卒、人事院勤務を経て、早稲田大学大学院博士課程満期退学。修士(学術)。2011年4月1日より現職。音楽なら中島みゆきとラフマニノフ。小説なら山崎豊子と宮本輝。どちらかというとなり体育会系の人間。

- 社会保障原理
- 社会保障制度論
- 社会政策論 I

どんな社会で暮らしたい？

研究テーマ

スウェーデンと関わること約15年。最も長く研究しているテーマは保育政策です。救貧対策として始まった「保育所」は、いまや生涯学習の最初のステップに位置付けられ、「就学前学校」として教育政策の範疇にあります。これまでの長い歴史のなかで幾度も改革が行われてきましたが、私の関心は、「なぜ、その改革が可能だったのか」「どのようにその改革案が生み出されたのか」にあります。一つの施策が生まれてから、実行に移されるまでの過程に焦点を当て、保育政策(スウェーデンの現実に即せば「教育政策」ですが)を研究しています。

大学に入るまでは、顕微鏡のなかの小さな世界が大好きでした。人為が入り込まないミクロの世界の秩序ある美しさが好きでした。一方、政治の世界、例えば政治家の討論番組は本当に苦手でした。ところが不思議なもので、公務員生活を経たせいか歳を重ねたせいか、利益の表出や調整に関心をもつようになり、大学院では政治学を学びました。

私がスウェーデンをフィールドとするのは自分の価値観に合致するところがあるからです。授業では主に社会保障を担当していますが、社会保障を学ぶことは、自分の価値観について考えることでもあります。社会保障制度の体系は国によって異なっており、そのありようは、その国がよってたつ基幹理念を反映しているといっても過言ではありません。社会保障を学びながら、自分が理想とする社会のありように思いを巡らせる過程で、自分が重きを置く価値観が何かに気付くでしょう。

ゼミの内容

社会保障の範疇でゼミ生各自が関心のあるテーマを設定し、研究します。どの国や地域のどんなテーマを設定するかは自由です。2年生後期の基礎演習では、「読む、書く、発表する、質問する」ことに重きを置きます。特に「発表する、質問する」ことは、少人数学習であるゼミの場では重要です。質問は「高度なこと」や「格好いいこと」でなくていい。「素朴な疑問」が考えるヒントを与えてくれることが多々あります。また、「不思議だ」という好奇心をもつことも大事。「当たり前」と万人が納得できることなど、世の中にはそうそうありません……とこんな期待をもちつつ、18人の若武者相手に奮闘しているところです。

秋朝ゼミは2011年から開講したゼミで、社会保障制度をメインの題材に毎時間二人ずつの発表を行っています。ゼミは単に問題意識を持つだけでなく発表の仕方や学んだり、他者の意見に耳を傾けることができる良い機会となります。先生も明るく気さくな方なので、皆で仲良くゼミに取り組むことができます。

秋朝ゼミ1期生

ゼミ生のこと

